

今日は 何年・何月・何日 ちゃんとと言えますか？

～「物忘れ」と認知症検査～



令和3年9月15日発行

放射線技術科

「物忘れ」と認知症は異なります

「物忘れ」は、高齢化につれて誰にでもみられるものですが、社会生活や家庭生活に支障をきたす場合には認知症の可能性が考えられます。厚生労働省の発表によると、2025年には65歳以上の高齢者のうち認知症の人は約700万人（5人に1人）に増加すると予想されています。



加齢による「物忘れ」と認知症による「物忘れ」の違い

加齢による「物忘れ」	認知症による「物忘れ」
体験したことの一部を忘れてしまうことがあるが、ヒントがあれば思い出すことができる	体験したこと自体を忘れていて、ヒントを出しても思い出せない
物を失くすと自分で見つけようとする	物を失くすと誰かに盗られたとすることがある
忘れやすいことを本人が自覚している	忘れてしまったことを自覚しなくなることがある

認知症は徐々に進行していく病気です

認知症の中でも最も多いアルツハイマー型認知症では、脳の萎縮（小さくなること）が脳の中の記憶の中核と知られている「海馬」のあたりから始まって広がっていきます。そのため、症状は記憶の障害（物忘れ）から始まり、徐々に認知機能全体が低下していきます。現在、認知症は症状の進行を一定期間防ぐ薬はあるものの、根本的な治療薬は開発段階のため早期発見が重要です。



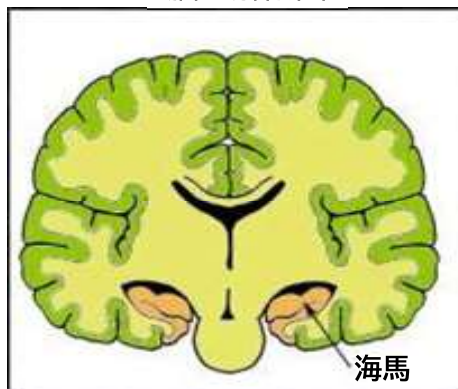
認知症の診断に脳画像検査が役立ちます

MRI 検査によって脳の形を見ることができ、診断のための重要な手がかりを得ることができます。

脳の解剖図

正常の脳 MRI

アルツハイマー型認知症



アルツハイマー型認知症の人は正常に比べ記憶にかかわる海馬（赤○）の萎縮が目立ちます。

ご心配な方は、かかりつけ医などの医療機関へご相談ください。